

DX戦略2.0 2026年8月



横浜信用金庫

DX戦略2.0策定の背景 —これまでの取り組みと環境変化・脅威への対応を踏まえ、次の成長フェーズへ—

DX戦略（4つの基本戦略）に対するこれまでの主な取り組み内容（※1）

DX推進基盤の整備

2024年8月「DX戦略」の公表、2024年11月「DX認定」の取得



お客さまのデジタル化

【お客さまのデジタル化支援】

- 面での支援（「ITツールDX体験・相談会」のエリア開催）
- 点での支援（各事業者が個々に抱えるDX化への課題解決支援）

【お客さま向け非対面サービスの提供】

- 法人向け：「Yokohama Big Advance」「Mikatanoシリーズ」など
- 個人向け：「バンキングアプリ」など

金庫のデジタル化

【環境整備】

- グループウェアの導入・活用（ペーパーレス化・省力化・効率化）
- 店頭タブレットシステムの導入・活用（事務レス・伝票レス化）
- 全役職員へ業務用スマートフォンの配備
- ネットワーク環境の整備（※2） など

【生成AI活用】

- PoC実施 ⇒ ガイドライン制定 ⇒ 特定した「生成AI」サービス・ツールの業務利用を開放

外部サービスとの連携・利活用

【お客さまのデジタル化支援】

- 外部提携企業等と連携した「ITツールDX体験・相談会」の開催
- 外部提携企業等と連携したDX化への個社別課題解決支援

【外部知見】

- FDUA・FITAへの加盟
- NEC生成AI共同研究会・NEC Agentic AI共同研究会への参画

デジタル人材の育成・確保

【ビジネス系・IT系デジタル人材（※3）の育成】

- 各種IT関連公的資格等の取得推奨制度の拡充
- お客さまのデジタル化支援スキル醸成を目的とした各種研修実施
- 専門人材育成を目的とした各種外部派遣・出向の実施 など

【ビジネス系・IT系デジタル人材（※3）の確保】

- 新卒、第2新卒、中途を問わない継続的な採用の実施

成長
ステップ

「これまでの取り組み」の継続&進化・深化 + 環境変化・脅威への対応 ➡ 「DX戦略2.0」へ

※1）「DX戦略」の公表以前より実施・提供している内容等を含む

※2）金庫内システム【イントラネット】とインターネットを論理的に分離し、1台の端末から異なるネットワークを利用可能とする論理分離環境を構築

※3）デジタル活用による業務プロセスの改革推進やお客さまデジタル化支援を担う職員を「ビジネス系デジタル人材」と定義金庫内システムの運用・管理・構築やプロジェクト管理等を担う職員を「IT系デジタル人材」と定義

DX戦略2.0策定の背景

社会・地域を取り巻く外部環境と内部環境（外部環境等の影響・脅威への対応）

外部環境

少子高齢化と若年人口減少の加速による人手不足の深刻化

デジタル化の遅れによる生産性・競争力の格差拡大

地政学的リスクの高まり等によるサプライチェーンの脆弱化

資源価格等の高騰とデフレからインフレへの移行

ライフスタイルの多様化と共働き世帯の増加

インターネット・スマートフォンの普及加速

内部環境（外部環境等の影響・脅威への対応）

お客さまの価値観、行動様式の変化への対応
（IT・データ利活用の拡充など）

お客さまとの対面接点（機会）の減少への対応
（非対面チャネルの拡充など）

金融業への異業種参入の対応
（CX【顧客体験】の向上など）

生成AIの急速な普及
（生成AIのPoCからAgentic AIの実装へ）への対応

サイバーセキュリティの脅威への対応
（デジタル化の進展、サードパーティリスク管理）

先端技術
（フロンティアAI、PQC【耐量子計算機暗号】等）への対応

人手不足への対応
（ITツール拡充、デジタル化促進、AIを活用したスキルの平準化等）

多様化するお客さまニーズへの対応
（ITリテラシー向上、外部サービス活用、提携企業との連携強化等）

DX戦略2.0の全体像

DX戦略（4つの基本戦略）

お客さまのデジタル化

- 事務の非対面シフト
- お客さまのITリテラシーの向上

金庫のデジタル化

- ペーパーレス化、自動化、ワークフロー化の推進
- AI活用による課題解決の高度化
- 営業推進環境の整備
- システム全体最適による戦略的投資余力創出
- 次期基幹システムの検討

外部サービスとの連携・利活用

- クラウド利活用による迅速・柔軟なサービス提供
- API利活用による外部サービスとの連携
- 外部サービスを活用したお客さまのデジタル化支援

デジタル人財の育成・確保

- デジタル活用による業務プロセスの改革推進やお客さまのデジタル化支援を担う職員を“ビジネス系デジタル人材”と定義
- 金庫内システムの運用・管理・構築やプロジェクト管理等を担う職員を“IT系デジタル人材”と定義



DX戦略2.0（4つの基本戦略）

お客さまのデジタル化

- 事務非対面シフトの更なる促進
- お客さまのITリテラシー向上支援の更なる促進
- 非対面チャネル（アプリ・Web・チャット等）の更なる拡充
- データに基づくパーソナライズ提案
- 顧客体験（CX）の向上

金庫のデジタル化

- ペーパーレス化、自動化、ワークフロー化の更なる促進
- AI活用の民主化（業務効率の底上げ）・高度化（専門領域での活用）
生成AI ⇒ AI Agent ⇒ Agentic AI
- ネットワーク環境整備後の新たなワークスタイル（「場所・時間・現物」にとらわれない）の実践
- 営業推進環境の更なる整備
- システム全体最適による戦略的投資余力創出
- 次期基幹システムの検討
- データ基盤の整備（統合・可視化）

外部サービスとの連携・利活用

- クラウド利活用による迅速・柔軟なサービス提供
- API利活用による外部サービスとの連携
- 外部サービスの活用・外部提携企業等と連携したお客さまのデジタル化支援の更なる促進
- 新たな環境変化・脅威等に対応する外部知見の活用・拡充

デジタル人財の育成・確保

- “ビジネス系デジタル人材”と“IT系デジタル人材”（※1）の継続的育成
- 全役職員の更なるITリテラシー向上
- DX推進組織の横断的連携強化

※1：「サイバーセキュリティ」人財の確保・育成を強化

【3つの評価指標】

評価指標①
事業性顧客のデジタル化支援

評価指標②
デジタルチャネルユーザー数

評価指標③
DX人財の育成